

2025年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

2025年2月6日

フィード・ワン株式会社

東証プライム 証券コード2060

飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔が届ける

第3四半期(4-12月) 概況

各セグメントの第3四半期(4-12月)の外部環境および決算サマリーは下記の通り

畜産飼料事業

P07

P08

- ▶ とうもろこし輸入価格は、円安進行も市場予測を上回る生産見通しから軟調に推移し、前年同期を下回る
- ▶ セグメント利益は、10-12月は価格改定の影響で粗利悪化も、累計では販売数量拡大等により前年同期を上回る

水産飼料事業

P09

- ▶ 魚粉輸入価格は、前年の不漁により高値でスタート。直近では漁獲量回復で軟調に推移も、前年同期を上回る
- ▶ セグメント利益は、販売数量は前年同期を下回るも、価格改定の浸透により10-12月にて粗利が改善

食品事業

P10

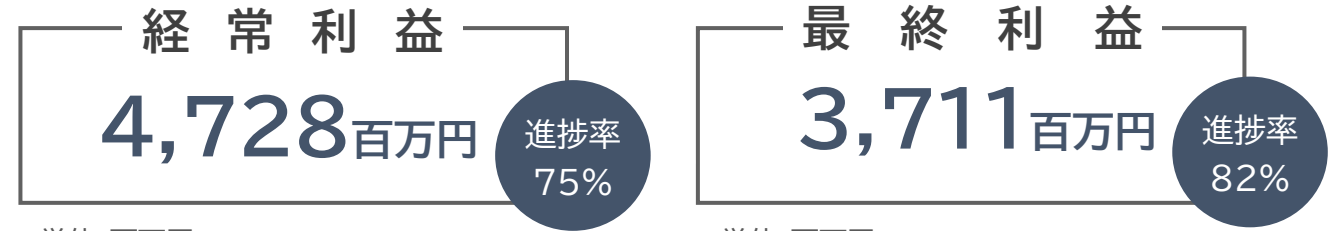
- ▶ 豚枝肉相場は、暑熱影響等による供給減から夏場にかけて急騰。年末にかけて下落するも、前年同期を上回る
- ▶ 鶏卵相場は、暑熱や鳥インフルエンザの流行により期首以降相場が続伸するも、前年同期を下回る
- ▶ セグメント利益は、畜産物相場の影響を受け、前年同期を下回る

第3四半期 連結決算概要

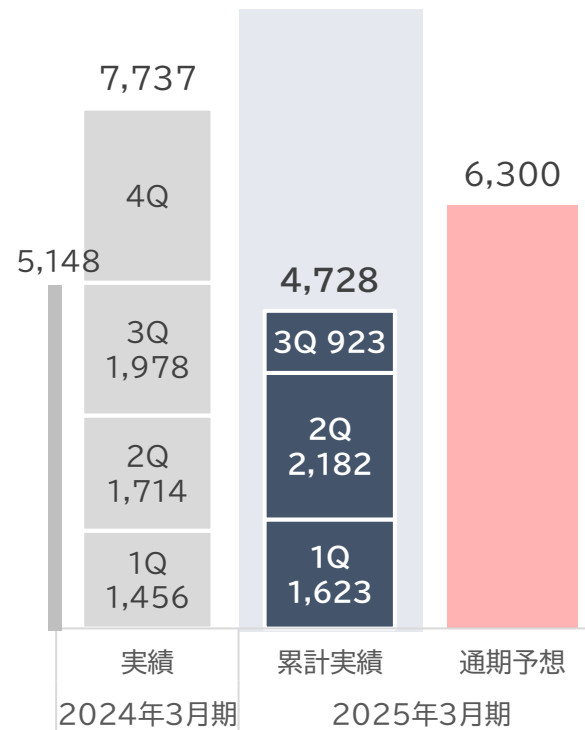
畜産飼料の価格改定(値下げ)により減収。経常利益は新基幹システムの償却費等の販管費増加により減益

単位:百万円

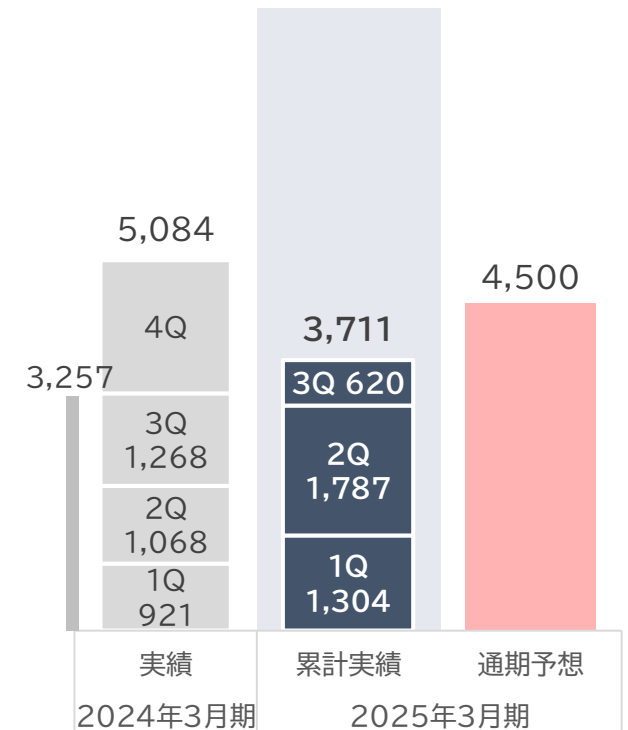
	2024.3期	2025.3期		通期業績 予想進捗率
	3Q	3Q	前年同期比	
売上高	238,369	225,521	▲5.4%	73.5%
売上原価	216,367	201,804	▲6.7%	-
売上総利益	22,001	23,716	+7.8%	74.6%
販管費	16,938	19,444	+14.8%	-
営業利益	5,063	4,271	▲15.6%	70.0%
経常利益	5,148	4,728	▲8.2%	75.1%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	3,257	3,711	+13.9%	82.5%



単位:百万円



単位:百万円



KPI進捗状況

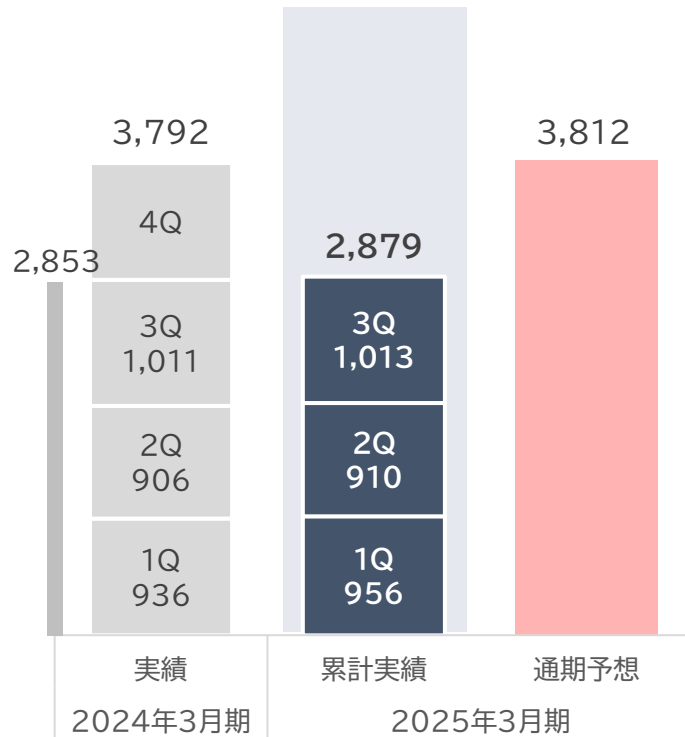
持続的な成長をしていくため、資本コストも意識し、販売数量、総投資額、EBITDA、ROIC、ROEをKPIに設定

販売数量

2,879千トン

進捗率
75%

単位:千トン



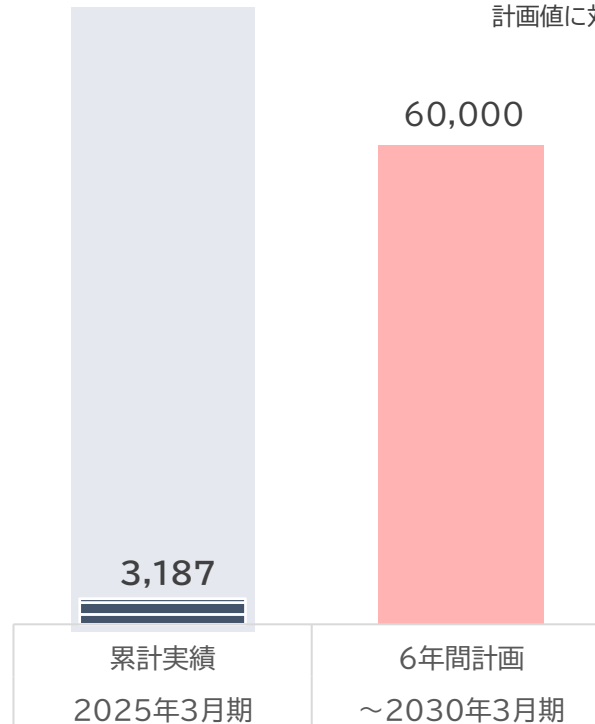
総投資額

3,187百万円

進捗率
5% ※

単位:百万円

※2030.3期までの
計画値に対する進捗



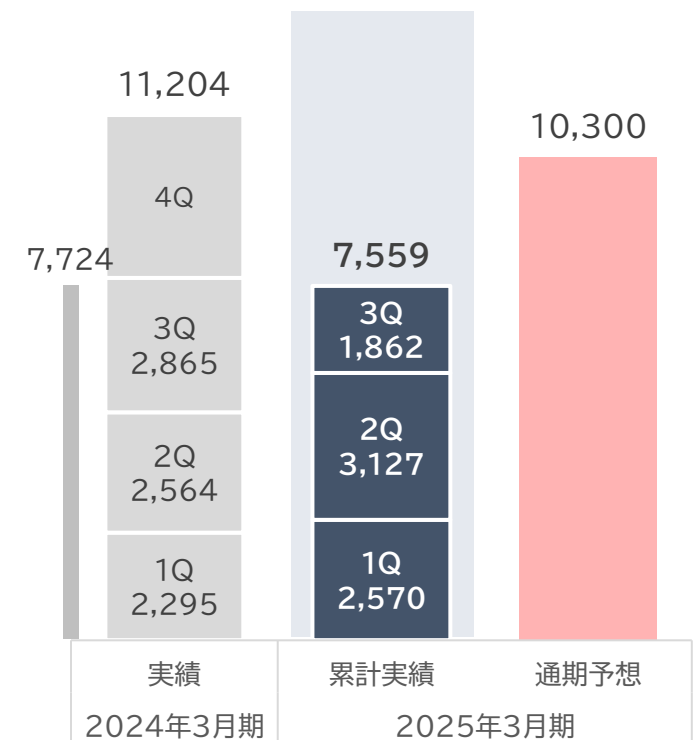
EBITDA

7,559百万円

進捗率
73%

単位:百万円

P04

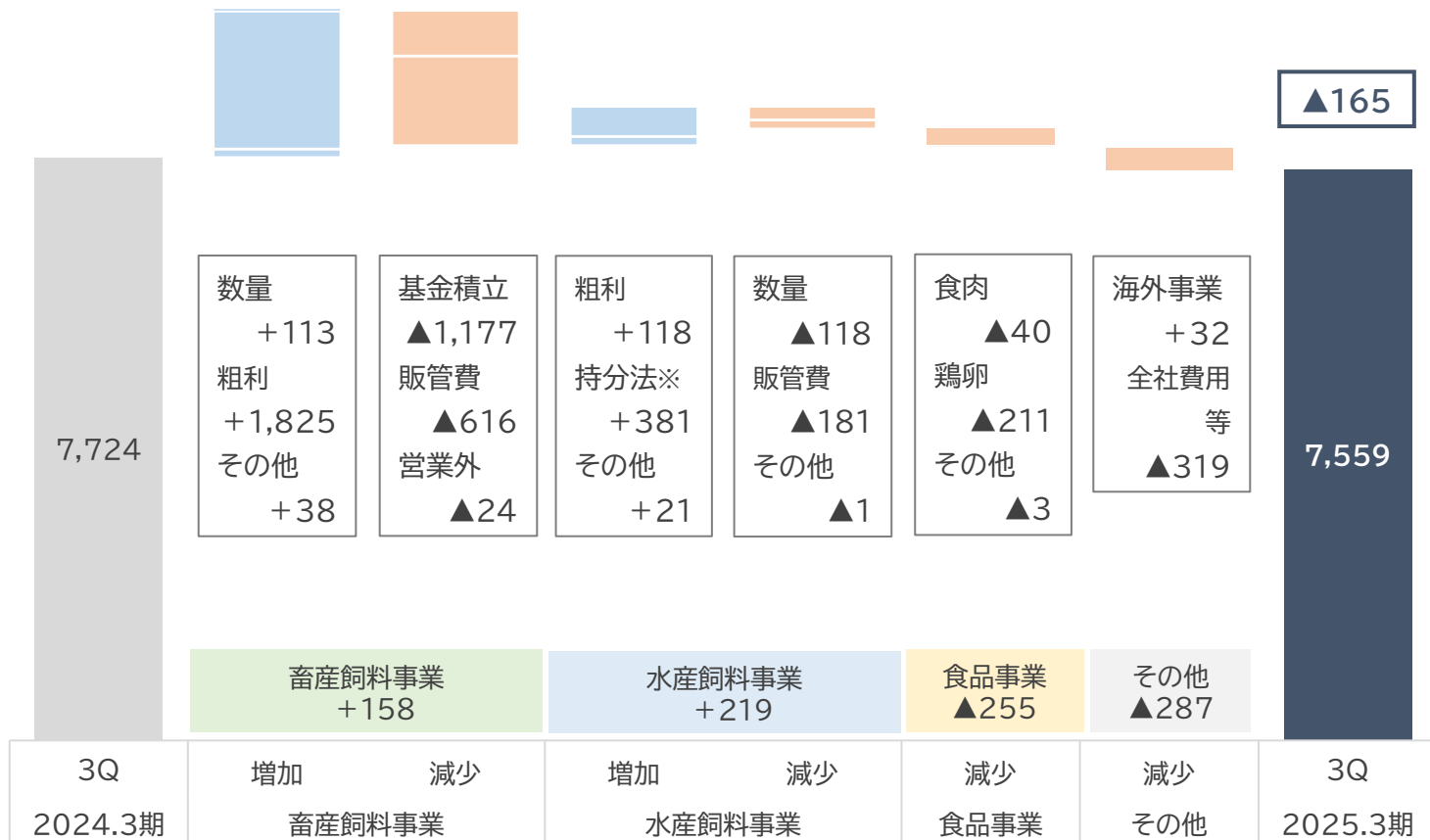


EBITDA増減要因

畜産・水産飼料事業の粗利増加も、積立金や新基幹システムの償却費等の販管費増加により前年同期比▲2.1%

単位:百万円

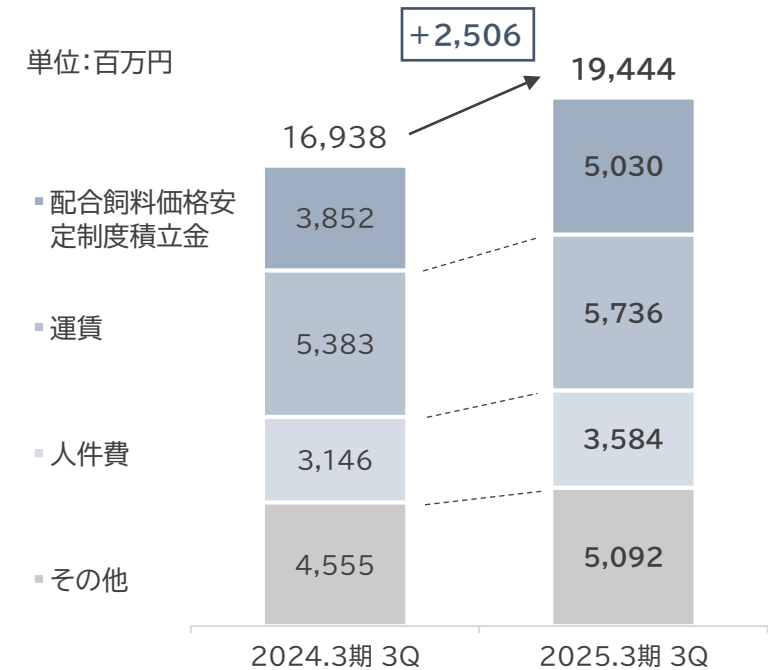
■ 増加 ■ 減少



販管費

- 配合飼料価格安定制度の積立単価が増加 **P16**
- 人件費は給与水準の引き上げにより増加
- その他は新基幹システム導入による減価償却費増加等

単位:百万円



※24.3期に極洋フィードワンマリンの清算に係る損失(持分法投資損失)を計上

年末(月末休日)による一時的な資金需要を借入金で賄う

連結貸借対照表

単位:百万円

()内の数値は2024年3月期末との差

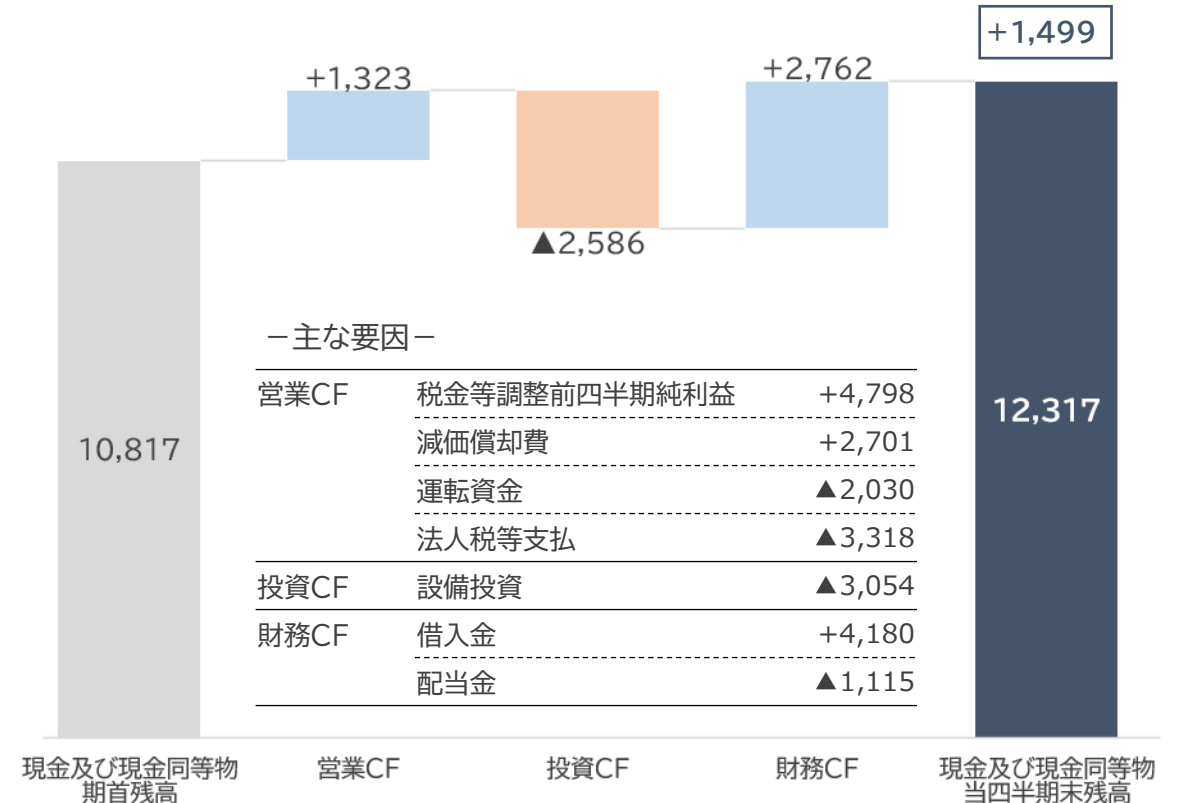
流動資産 91,892(+3,688)			流動負債 61,846(+6,725)		
現金及び預金	12,387	(+1,511)	支払手形及び買掛金	33,686	(▲674)
受取手形及び売掛金	52,259	(+430)	短期借入金	20,957	(+10,377)
棚卸資産	18,755	(+1,448)	未払法人税 等	181	(▲2,081)
固定資産 43,487(+653)			固定負債 19,501(▲5,559)		
有形固定資産	30,591	(+410)	長期借入金	14,990	(▲6,188)
無形固定資産	1,601	(+58)	純資産 54,032(+3,176)		
投資その他の資産	11,294	(+184)			

総資産 135,380(+4,341) 自己資本比率39.4%(+1.0ppt)

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

■ 増加 ■ 減少



セグメント別業績

畜産・水産飼料事業は粗利改善により増益も、食品事業は暑熱や鳥インフルエンザ流行等による仕入価格上昇から減益

単位:百万円

セグメント	2024.3期 3Q	2025.3期 3Q			
		増減額	前年同期比		
畜産飼料	売上高	185,922	175,949	▲9,972	▲5.4%
	セグメント利益	5,856	5,977	+120	+2.1%
	EBITDA	7,711	7,870	+158	+2.1%
水産飼料	売上高	21,134	21,104	▲30	▲0.1%
	セグメント利益	755	976	+220	+29.2%
	EBITDA	1,132	1,351	+219	+19.3%
食品	売上高	31,304	28,456	▲2,848	▲9.1%
	セグメント利益	368	116	▲251	▲68.3%
	EBITDA	494	239	▲255	▲51.6%
その他/調整額	売上高	7	11	+3	+42.9%
	セグメント利益	▲1,831	▲2,341	▲509	-

※今年度よりセグメントを変更 旧)飼料・食品・その他 → 新)畜産飼料・水産飼料・食品・その他

※セグメント利益:経常利益ベース

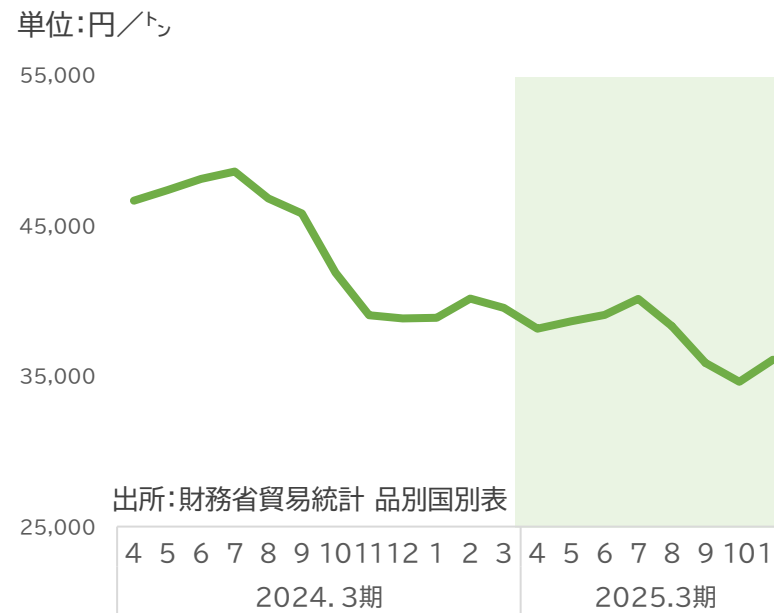
※EBITDA:経常利益+支払利息-受取利息+減価償却費及びのれん償却費

円安進行もシカゴ相場は軟調に推移し10-12月の畜産飼料販売価格は値下げ。累計平均販売価格も前年同期を下回る

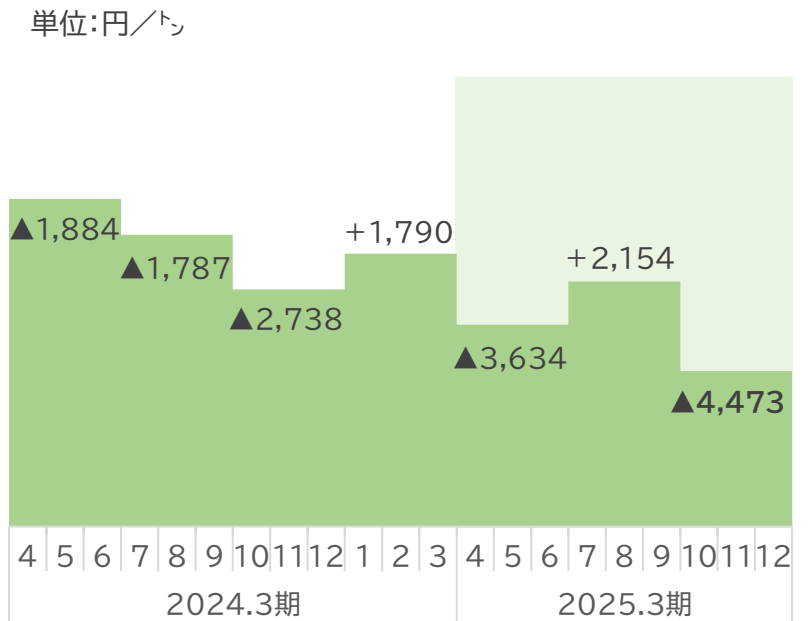
為替とシカゴ相場



とうもろこし輸入価格



畜産飼料販売価格



- 為替は日米の経済指標や金融政策の影響により円安が進行
- シカゴ相場は市場予測を上回る生産見通しから軟調に推移も9月以降上昇傾向
- とうもろこしの輸入価格は前年同期を大きく下回り推移（前年同期比▲16.3%）

- 畜産飼料販売価格は前年同期比▲6.6%

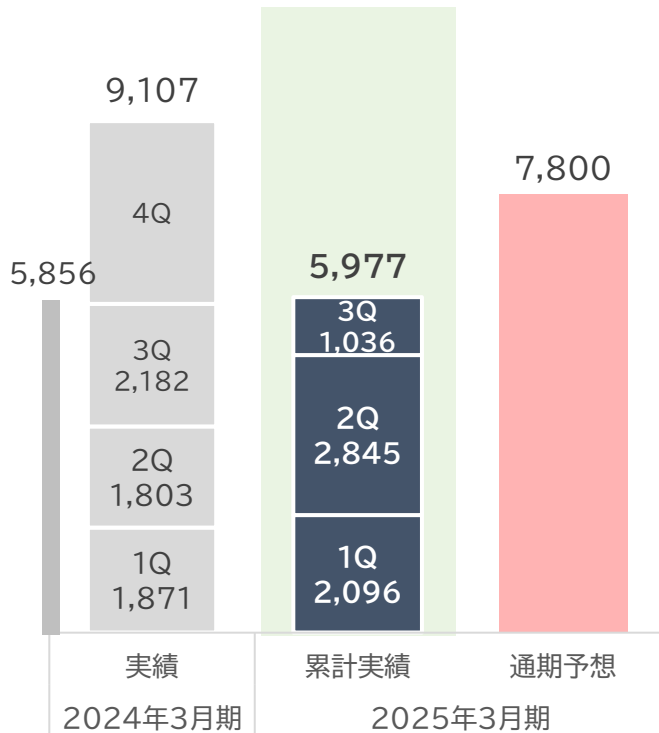
P15

セグメント利益は、10-12月は価格改定の影響で粗利悪化も、累計では販売数量拡大等により前年同期を上回る

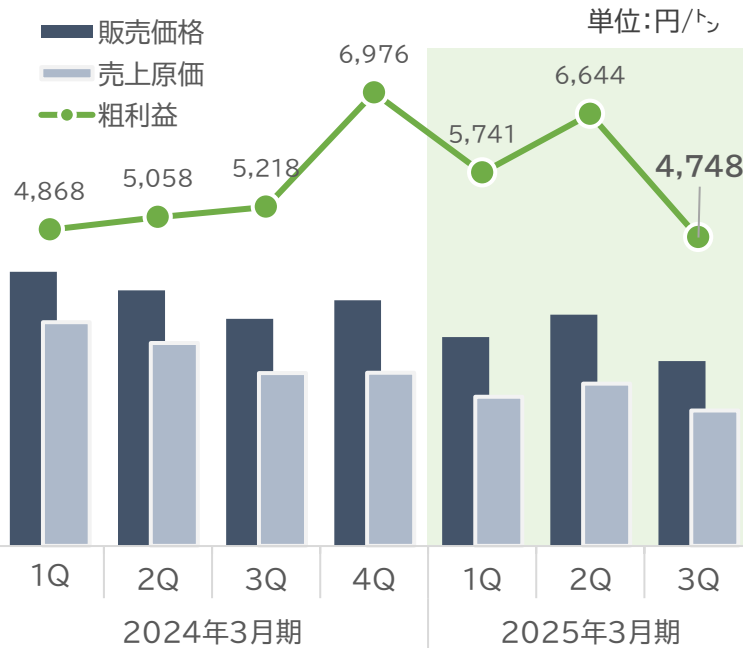
セグメント利益
5,977百万円

進捗率
77%

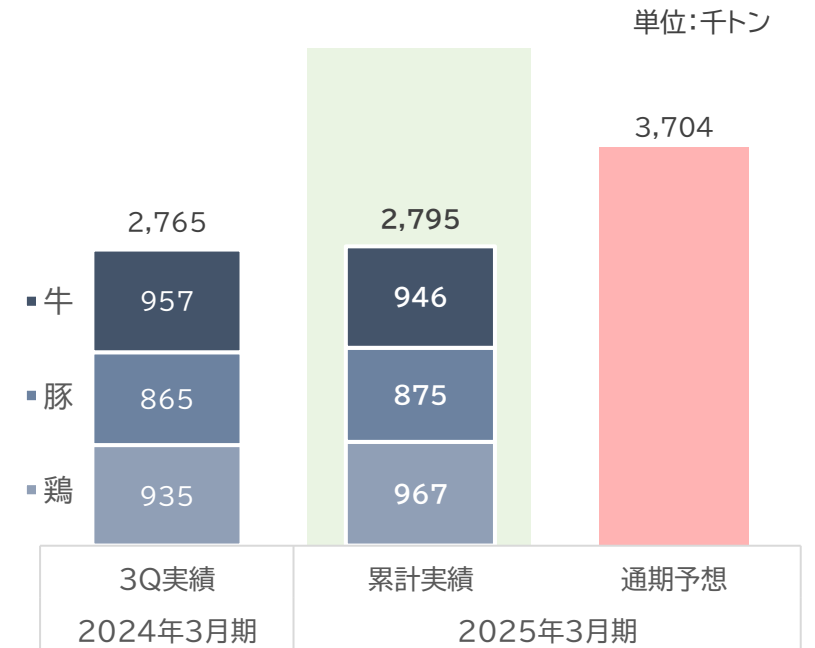
単位:百万円



トン当たり販売価格と売上原価の推移



畜種別販売数量



※販売数量の合計値は鶏・豚・牛を除いた販売数量も含む

- 10-12月は原料価格を下回る価格改定を余儀なくされ粗利悪化
- 販売数量は養牛で減少も、大手顧客への拡販等で養豚・養鶏用がけん引し前年同期比+1.1% (参考)全国の畜産飼料販売数量は前年同期比+0.7% (当社調べ)

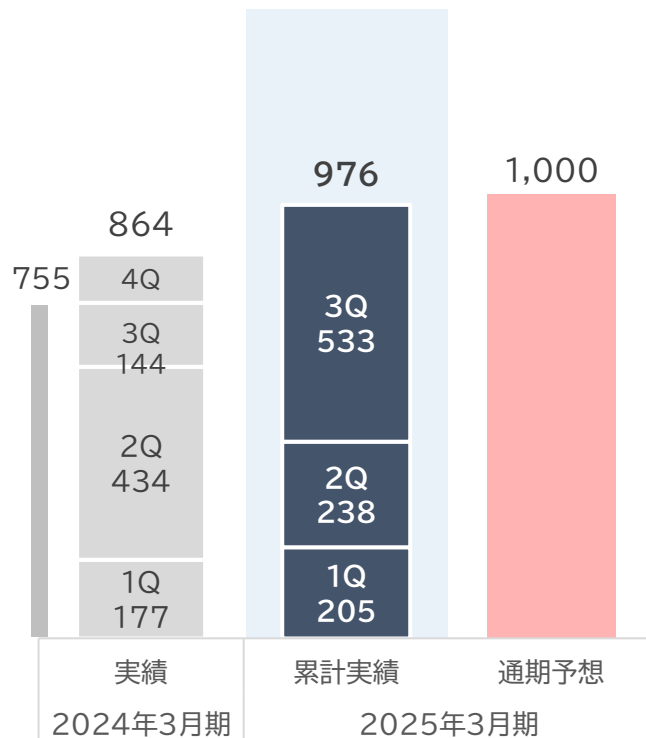
セグメント利益は、販売数量は前年同期を下回るも、価格改定の浸透により10-12月にて粗利が改善

セグメント利益

976百万円

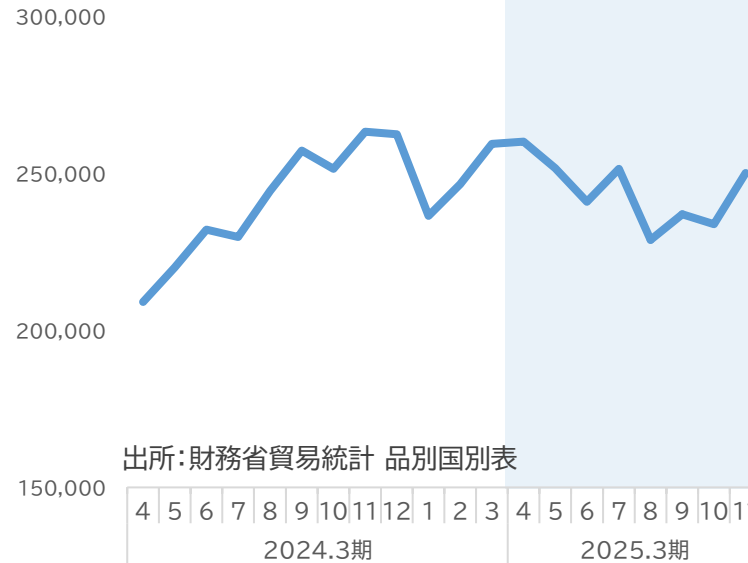
進捗率
98%

単位:百万円



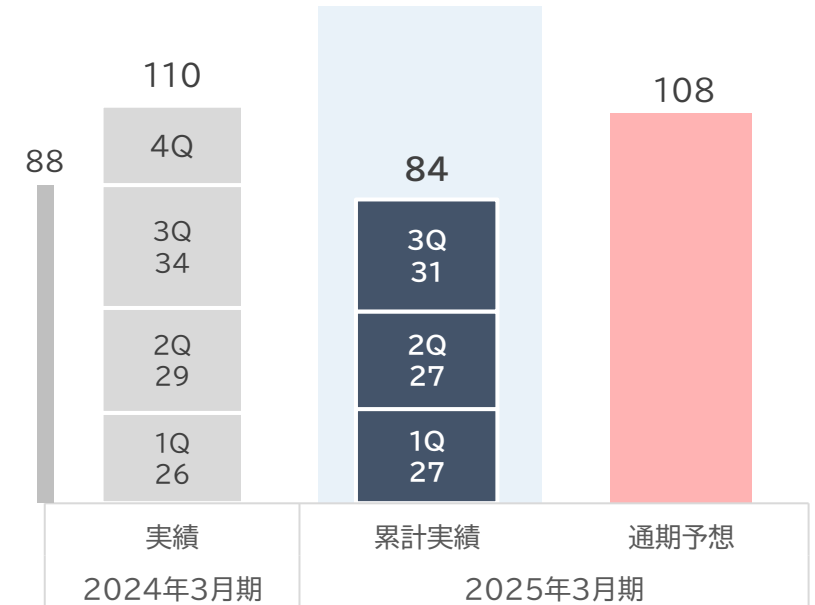
魚粉輸入価格

単位:円/トン



販売数量

単位:千トン



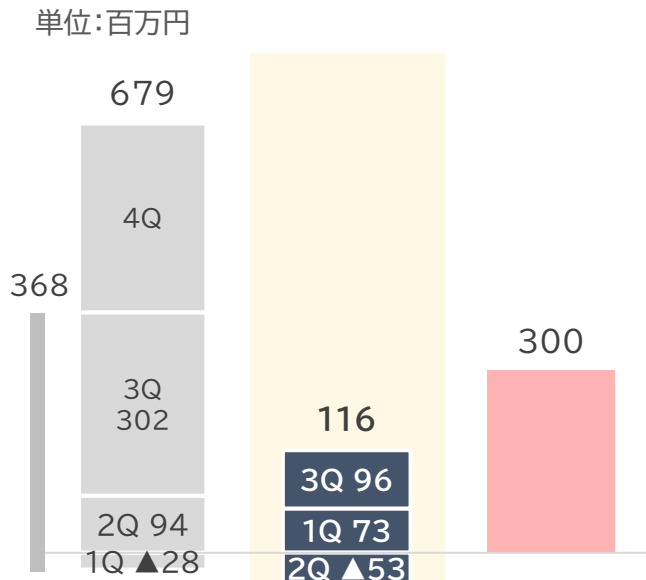
- 4月に実施した価格改定の浸透により収益構造が改善。通期平均で前年を上回る粗利に回復
- 販売数量はマダイ用は好調も、高水温による給餌制限等の影響を受け前年同期比▲4.9% (参考)全国の水産飼料生産数量は前年同期比▲4.1% (当社調べ)

セグメント利益は、畜産物相場の影響を受け、前年同期を下回る

セグメント利益

116百万円

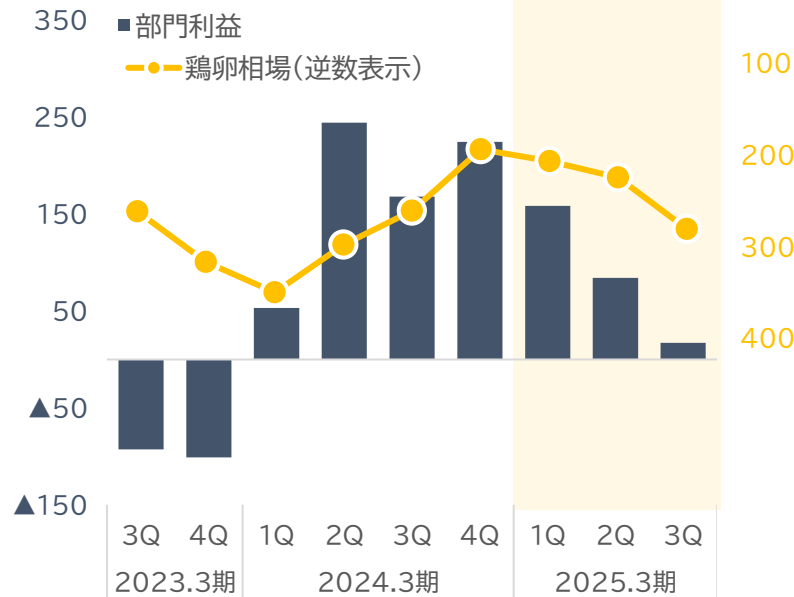
進捗率
39%



実績 2024年3月期
累計実績 2025年3月期
通期予想

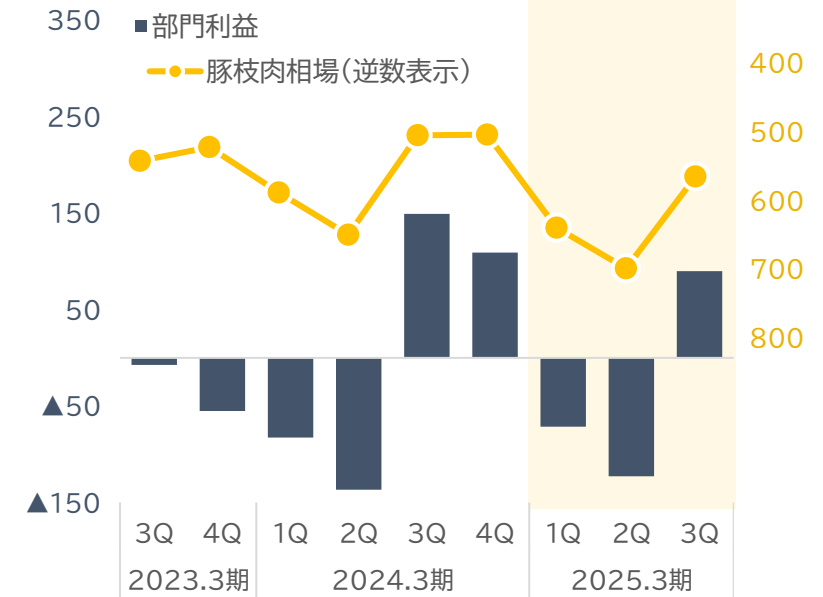
鶏卵部門:利益・鶏卵相場四半期推移

単位:百万円



食肉部門:利益・豚枝肉相場四半期推移

単位:百万円



- 鶏卵:10-12月は鶏卵需要期のなかでの鳥インフルエンザ流行(トピックス参照)により鶏卵相場がトレンドに反し上昇。仕入価格が上昇したため粗利悪化
- 食肉:10-12月は出荷頭数回復により豚枝肉相場が下落。仕入価格が低下したため粗利改善

期初予想から変更なし。通期業績予想は、売上高は畜産飼料の価格改定(値下げ)により未達も利益は達成を見込む

単位:百万円

	2024.3期	2025.3期		
		(2024年5月10日発表)	増減額	前期比
売上高	313,875	307,000	▲6,875	▲2.2%
売上原価	283,153	275,200	▲7,953	▲2.8%
売上総利益	30,721	31,800	+1,079	+3.5%
販管費	22,972	25,700	+2,728	+11.9%
営業利益	7,748	6,100	▲1,648	▲21.3%
経常利益	7,737	6,300	▲1,437	▲18.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,084	4,500	▲584	▲11.5%

通期
業績
見通

畜産飼料事業



4Qの価格改定にて粗利は回復し、通期予想は達成見込

水産飼料事業



4Qは低水温による数量減少も粗利を堅持し、通期予想は達成見込

食品事業



鳥インフルエンザ流行中。鶏卵相場高騰による仕入価格上昇懸念続く

外部環境による2025年3月期の通期予想達成への影響は軽微

トランプ2.0による当社事業への影響

- [飼料原料] 畜産飼料は輸入原料が8割以上を占めるため(P15参照)、関税の引き上げや日米金利差の拡大による円安進行等から輸入原料価格上昇の懸念はあるが、当期の原料については概ね買付が完了しているため仕入価格上昇への影響は軽微
- [参考] 畜産飼料においては四半期に1度、輸入原料価格の変動に応じた販売価格の見直し(価格改定)が行われるため、急激な変動がない限りは粗利が確保しやすいビジネスモデルとなっている(P15参考)

鳥インフルエンザ流行による当社事業への影響

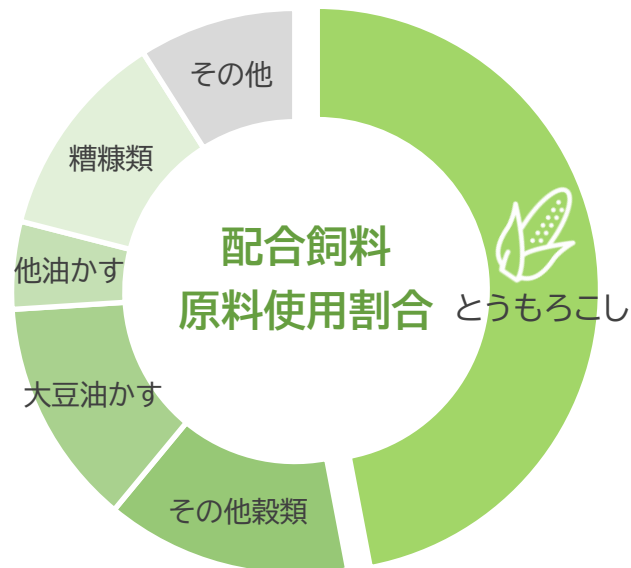
- 今シーズンは10/17に国内1例目が確認されて以来、50事例発生し、約927万羽が殺処分対象となっている(1/31時点 農林水産省HPより)
- 鶏卵供給量の減少から鶏卵相場が高騰。収束見通しも立たず、今後も更なる高値で推移する見通し
- 食品事業では、鶏卵の仕入価格高騰に応じた販売価格の改定ができなければ、粗利悪化の可能性がある
- 畜産飼料事業では、飼養羽数の減少による販売数量減少の懸念はあるが、畜種構成や販売エリアに偏りがいないため影響は軽微

appendix ~畜産飼料事業の特徴~

畜産飼料事業は輸入原料の価格変動に応じ販売価格の改定を行うため、一定の粗利が確保しやすいビジネスモデル

輸入原料が8割以上^(※)を占める

配合飼料はとうもろこしや大豆油かすといった輸入原料が大半を占め、中でもとうもろこしの割合は大きく、主産地であるアメリカやブラジルの相場はもちろん、為替や海上運賃の影響を大きく受ける



【売上高】 輸入原料価格の変動に応じ販売価格を見直し

- 四半期に1度、輸入原料価格の変動に応じた販売価格の見直し(価格改定)が行われる
- 売上高は価格改定の影響を大きく受けるため業績の指標にならない

【売上原価】 売上原価の9割を原料費が占める

- 売上原価に占める原料費の割合は9割を超える
- そのうち8割以上が輸入原料となるためその価格変動は売上原価に直結する

【販管費】 配合飼料価格安定制度積立金を計上

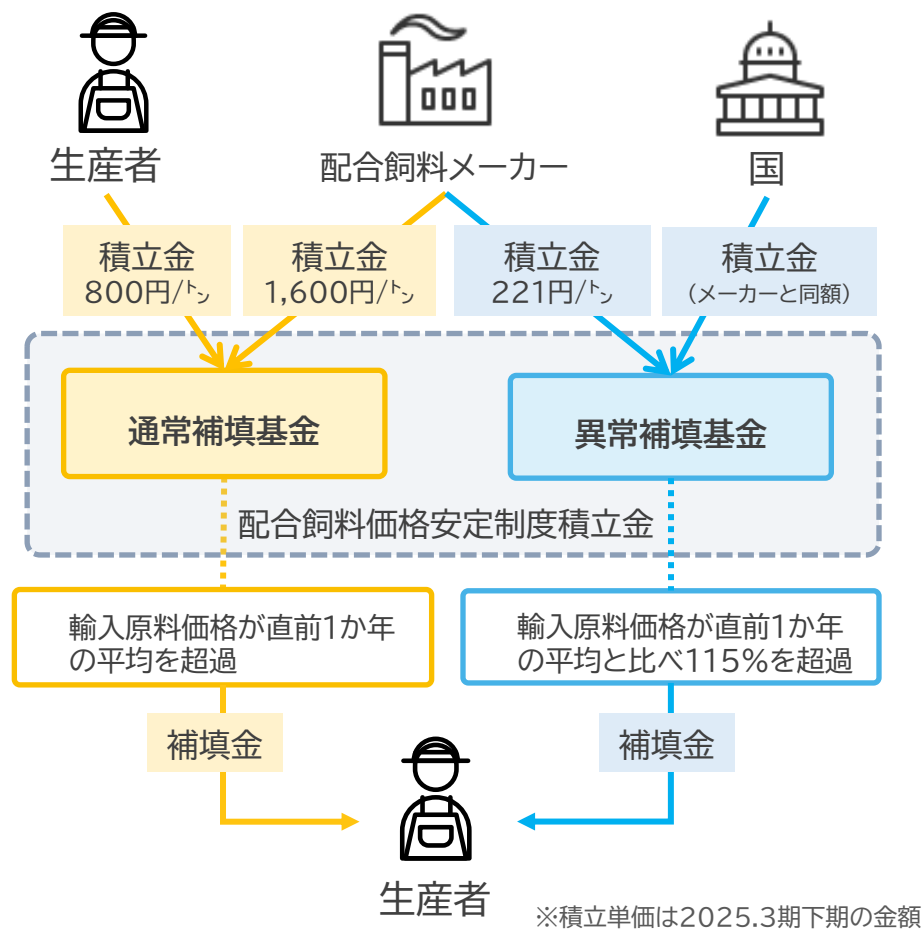
P16

- 輸入原料価格の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度
- 国、配合飼料メーカー、生産者が補填基金を積み立てており、発動条件を満たした際に生産者に補填金が支払われる。
- 積立金は販管費に計上している。第3四半期は製造数量に対し**1,821円/ト**を積立

配合飼料価格安定制度積立金

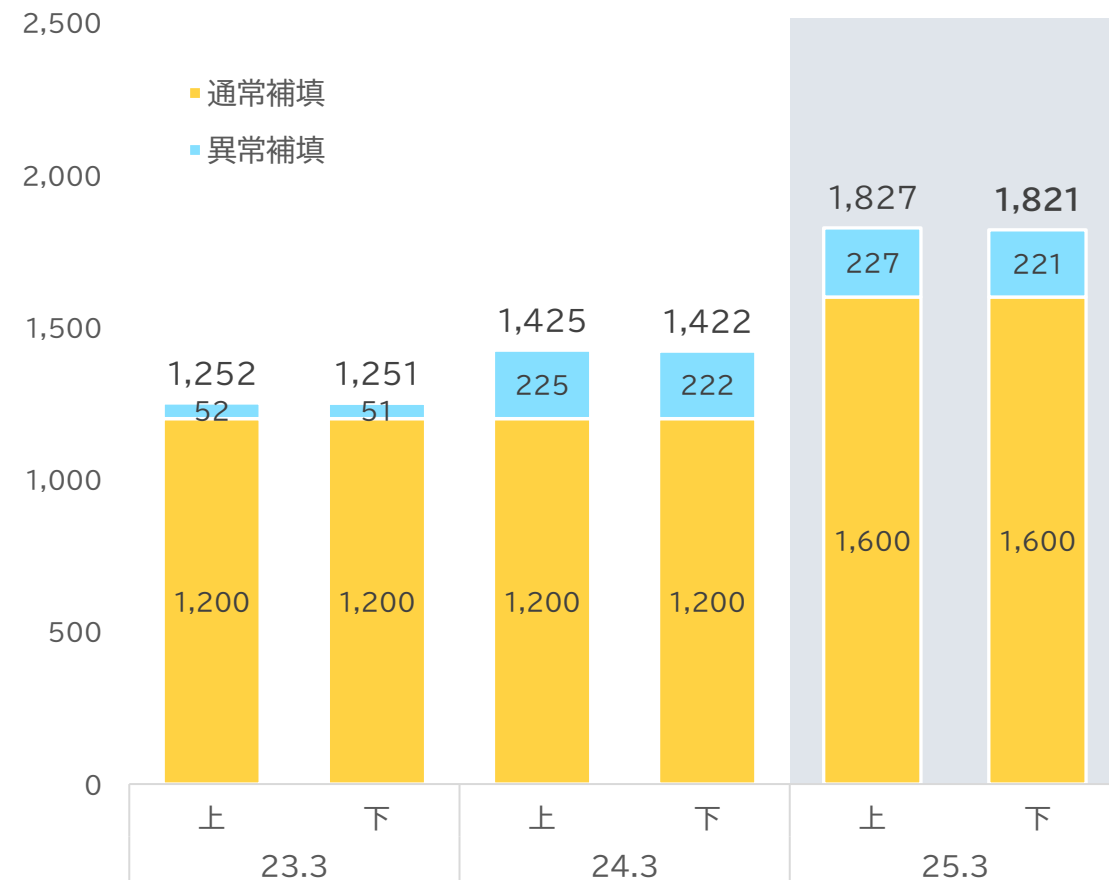
輸入原料の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度

制度の仕組み



積立金推移(配合飼料メーカー)

単位:円/ト



高い市場競争力と、リスクヘッジの効いた販売構成が大きな強み

市場競争力

原料購買～販売まで確かな技術力



－ 主原料購買力

株主である三井物産(株)との連携により仕入の安定性が担保されている



－ 全国に展開する製造拠点

全国13工場の生産拠点を有し、全国の顧客をカバー



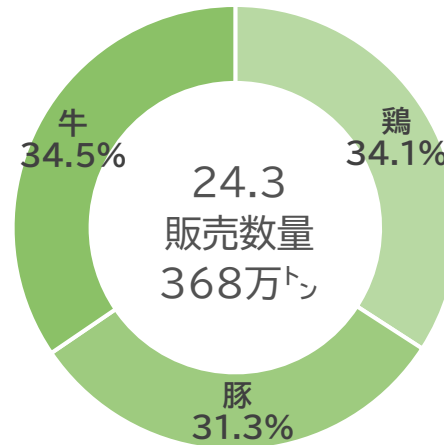
－ 従業員の技術力

畜種毎の専門性を深化させており、その道のプロフェッショナルが顧客対応している

また、国内3か所の研究所をベースに、国内大学・研究機関に加え、アメリカの大学等とも提携

偏りのない販売

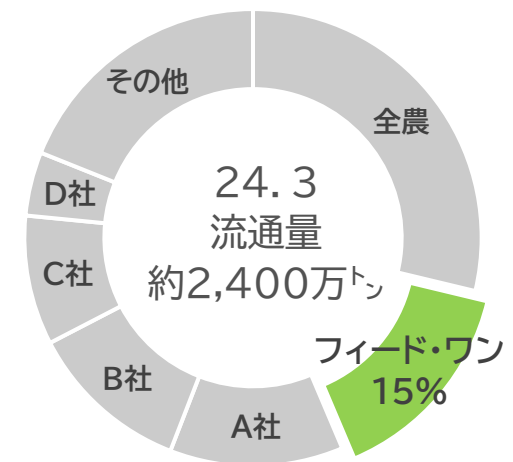
鶏・豚・牛の販売構成比がほぼ均等



家畜伝染病等による影響を最小限に抑えることができるバランスのとれた畜種構成を特長とする

市場占有率

民間企業でNo.1



市場は横ばいで推移するなかで、毎年販売数量を伸ばし、10年間で40万ト以上拡売し、シェアを13%から15%に伸長

『「ONE」にこだわり、選ばれる企業へ』のVisionのもと持続的な成長へ

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。

当資料に関するご質問・お問い合わせにつきましては、弊社のIR代表アドレス宛 (ir@feed-one.co.jp)にご連絡ください。

